

2017(平成29)年度 大町岳陽高等学校 学校自己評価表(案)

学校教育目標	重点目標	具体的な目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
CC	活動の基本方針	重点目標		成果と課題	改善策・向上策
01 教務	(1)教育活動の円滑な運営を図る。 (2)新たな問題について、職員の意向を把握し、円滑な対応をする。 (3)ビジョン委員会と連携をとりながら、基盤作りを推進する。	3①,② 1, 2, 3	(1)岳陽高校の将来像を見据えた学校運営の基礎固めを図る。 (2)体験入学、公開授業などを通し、きめ細やかな情報発信の機会を設ける。	4 夏休み前の非常にタイトなスケジュールをこなしていただいた、先生方や生徒に感謝したい。 ICT機器の導入などにより、新しい学校としての学習環境が整ってきた。 渉外的には、公開授業・体験入学・中学訪問(2回)、HPを通して情報発信を行うことができた。	この1年間で蓄積されたノウハウを生かしながら、先を見た対応ができるよう努力したい。
02 生徒指導	(1) 諸規則の徹底と指導 (2) 安全指導 ①交通安全②環境保全③性被害防止 (3) 相互信頼関係の確立(生徒会活動・クラブ活動等・いじめ防止他) (4) 他機関等との連携(保護者との連携、必要に応じて外部組織との連携、他) (5) 特別支援に関する理解と支援の充実(研修会参加、具体的な支援策の研究)	1-② 1-② 2-② 2-②	① 身だしなみ(頭髪や制服着用)や節度ある生活態度の育成(上下履き)※学年生指と担任の連携。校風委員会との連携 ② 交通マナー、免許取得指導 ③ 性被害防止・情報モラルに対する指導 ④ 相談室の実用化と生徒情報の共有 □	4 昨年度まで問題の中心となっていたSNSに関わるトラブルは今年度は1件のみであり、落ち着いていた。一方で他校同様に、飲酒・喫煙に関わる問題が発生した。高校全体として増加傾向にあるので今後注意していきたい。また、今年度は生徒のマナー、モラルといった面において外部からの苦情が多く寄せられた。立ち番、見回り等の対応を行ったが、日頃から生徒へのマナー向上意識の喚起が必要であった。 生徒相談においては、相談室の開放やカウンセリング等の実施調整を随時実施してきた。特に授業に出席でない生徒については、担任、養護教諭、カウンセラー、関係職員と連携を図りながら対応を行っているが、今後更にきめ細やかな対応が必要とされる。	平時より、担任、学年を中心に様々な角度から生徒の規範意識の向上を図るような呼びかけをお願いしたい。また、学校の決まりに関わる細かな部分については、更に修正等を行うと共に、全職員の意識の統一も図りたい。そのためにも学年と連携を密にしなが、しっかりとした情報共有を行いたい。 また、生徒相談と生活指導の連携を更に高めることで、生徒、保護者等に対して、適切な対応を行うためにも、担任、学年、養護教諭等、各係との協力体制の充実を図りたい。
03 生徒会	(1)各種行事の生徒による自主的な企画と運営 (2)岳嶺祭やアジアフ活動を通じて、地域保護者との連携を図り、物事をなしとげる喜びと感動を体験させる。 (4)HRや他機関との連携による、日々の委員会活動・クラブ活動の活性化	1-② 2-① 3-① ②	1. 自主性に富み、問題解決に積極的に取り組む生徒を育てる。 2. 豊かな人間関係を育成し、社会的マナーと資質を高める。 3. 学年間の縦のつながりを大切に、本部・役員指導力を高め、新旧交代を円滑に行う。 4. 生徒総会および委員会活動を活発にする。 5. クラブの適切な運営と活動の充実を図る。 6. 行事を通じて学校生活の充実を図る。 ア 自主的・民主的な企画と運営 イ 目的の明確化・共有化 ウ クラス活動の活性化と地域社会への発信 エ 帰宅時間・ルール遵守と事故防止 オ 移行期における行事のあり方の検討・実施	4 【前期】 大体育館が新設中という逆境のなかでの1年間であった。中庭を最大限に活用し、屋外での生徒総会・文化祭開祭式・壮行会を計画し、実行できたことは、職員の決断と生徒の入念な準備があつて成し遂げられたものと評価される。2つの学校でそれぞれ継承してきたものが異なる応援練習で、本部・応援委員と生徒との間に意識の差があり、かなりゆるやかに新入生に配慮する対応となった。実施内容についてはさらに検討したい。 各生徒会行事の前に念入りにリハーサルを行うことにより、集合整列、総会は時間内に整然と終わることができた。質疑応答、さらに踏み込んだ議論ができるようになっていきたい。「こんにちは県議会」では活発な討議ができた。	【後期】新体制より旧町校・北校という枠組みは無くな名実ともに岳陽高校の生徒会となった。応援練習の継続をするか否かなど。伝統の継続することの困難さに直面している。新しい学校の基礎をつくりためにも文化祭・委員会活動で、学年・クラスを超えた連携をとることが必要だと考える。職員・生徒の意見交流の場をもうけたい。【アジアフ活動】支援物資収集について研究する。アジアフ冊子の普及を図る。
04 人権教育	憲法や教育基本法、子どもの権利条約等の精神に基づき、基本的な人権が保障される民主的で平和な社会を形成するため、あらゆる差別や戦争等も含めた人権侵害を許さず、それらの問題を解決していく意欲と実践力をもった生徒の育成を目指して行う。	1-② 2-② 3-②	(1) 基本的人権のあり方や差別の実態、戦争の真実について知り、科学的理解を深めさせる。 (2) 差別されたり疎外されたりしている人や、戦災や飢餓、貧困や社会的不平等に苦しんでいる人の立場に立ち、その心の痛みに共感できる感覚を養う。 (3) 身の回りにおける人権侵害や差別、偏見などを認識する力を養い、それらを是正していく姿勢を身につけさせる。 (4) 世界には、また自分の周囲にも、人種・民族・国籍・性差・信教・思想信条・障がいや病気の有無・経済状況等々が異なるさまざまな人々がいることを認識させ、お互いの存在を尊重する意識を育てる。 (5) アジア・アフリカ難民支援活動などを通して世界の現状を知り、周囲の人々との助け合いや国際連帯の重要性を認識させる。	人権映画の鑑賞は、係を中心に慎重に作品を選定し、業者に依頼した。作品の出来もよく、生徒達は集中して観ていた。また、鑑賞後に提出された感想文の中には、「改めてハンセン病について調べた」とか、「深く考えてみた」というものが多くあり、この問題についての、所期の目的が達成されたと思われる。 アジア・アフリカ難民支援活動については、大町北高校から引き継いだ生徒会の取り組みであるが、全生徒の理解を得て、生徒会全体で取り組んでいる。今年は、大町市民の多大な協力もあり、沢山の援助物資を送ることができた。生徒が、援助活動の一翼に携わり、国際的な人権問題に目を向けることに役立ったと考える。 公開授業については、第2回学校人権教育連絡協議会の行事の一環であったが、11ブロックの各学校の先生方に参観していただき、貴重な意見を頂戴した。	全校人権学習はこのところ映画鑑賞を行っているが、情報収集に務め、今年以上に生徒への教育効果のある作品を選定することが求められる。 また、アジア・アフリカ難民支援活動は、生徒がその意義や効果についてより一層理解を深められるように、生徒会を支援していきたい。 公開授業については、今年度当番校だったため実施したが、本来は多くの教科で人権教育に資する授業を充実させ、当番か否かにかかわらずできるものは積極的に公開することが望まれる。
05 進路指導	生徒自身が、自己認識を深め、自主的に自らの将来像を設計できるように組織的・継続的に指導・支援を行う。そして3年間の高校生活の中から自立した社会人への基盤の構築を目標とする。	1-① ②③ 3-②	(1) キャリア教育の充実： きめ細かいキャリア教育を通して、生徒が自らの能力・適性を発見し、社会的関心を深め、国際的な視野を広げて、主体的な進路決定が出来るように支援する。 (2) 多様な進路希望の実現： 生徒の多様な進路希望実現のために、伸びる力を最大限伸ばし、早期から具体的な目標を持たせ学力の向上を図るとともに個に応じた丁寧な学習支援・進路指導を組織的に行う。	(1) キャリア教育の充実に関して 各学年において就業体験、企業見学、学習支援体験等を行った。またハローワークと連携した企業説明会へ参加した。 (2) 多様な進路希望の実現に関して 各学年において模擬試験、進路学習調査(スタディーサポート)、進路講演会、学習合宿、模擬授業、特定大学対象の進路講演会、大学見学ツアー等を行った。2年目ということ個々の行事が岳陽の進路のスタイルとして定着しつつある。 (3) 学習環境の整備に関して 学習スペースの設置、思文堂(学習室)・自習教室の管理運営を行った。	多くの進路関連行事を、全体を見渡して整理・統合し、より効果的なものにしていきたい。 学究科2クラス、普通科4クラスが全学年で実施される来年度に向けて岳陽高校としての進路スタイルの確立を目指したい。 学習指導係、生活指導係とも連携し、模擬試験、進路学習調査等の結果を分析してそれに応じた進路指導係としての職員への提言、生徒に向けての発信をしていきたい。 また高大接続改革への対応を具体的に学校全体で進める為の準備をしていきたい。

学校教育目標	重点目標		具体的な目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
CC	活動の基本方針	学校重点目標・評価観点の	重点目標		成果と課題	改善策・向上策
06 学習指導	生徒の一人一人の人格の完成をめざしつつ、多様な「進路希望の実現」に対応できる学習指導体制の確立を目指す。	1 - ① ②③ 3 - ①	1. 土曜補習の全体計画及び学年間で連携をとった実施。 2. 進路希望の実現に向けての平日・長期休業補習の実施。 3. 岳陽塾・岳陽アカデミーを活用した学習支援の検討。 4. 移行期の生徒への学習支援体制の充実。	4	1. 土曜補習は大教室が足りない状況で設定が苦しかったが、各学年調整に応じていただき無事開講できた。参加率は年度後半落ちてきたが、完全希望制だった大町高時代よりは高い水準である。塾の利用など生徒の学習環境も多様化しているので、学究科原則参加体制は今後の検討課題。 2. 夏期補習は進学対策を中心に各学年で企画して戴いたが、時間割の工夫で生徒のニーズに合った体制が取れた。 3. サテライト講座は年々利用者が減少する傾向にあるが、昨年の反省を生かし、9月からの平日補習と重ならないよう、7月の保護者懇談会午後、夏期休業の補習の合間に集中して受講する体制を取れた。あとは生徒が自分でやるか塾を選ぶかサテライトを利用するかの判断に委ねたい。但しこれ以上、受講生が減ると最少開講人数5人以上という条件が満たせなくなり、希望者がいても開けなくなるという問題が生じる懸念がある。 4. 3年12～1月期の自習時間の職員対応は例年より充実していたと思う。名簿をできるだけ精度の高いものにするために、各講座で事前にわかる情報は係に伝えて欲しい。来年度からのセンター対策については難しい問題を含み、容易に結論が出る問題ではないが、校内議論を深めて戴く契機はつくれた。 5. 新しい試みとして定期テスト2週間前より学習計画を立てさせ、その後振り返りをさせるために「スケジュールシート」をつくらせた。後半は計画までで、振り返りまでは進めなかったクラスもあった。	1. 土曜日午前は補習優先、午後はクラブ活動という原則を再確認していただきたい。 2. 夏期補習は生徒が参加しやすい体制・内容を今後も維持発展させていきたい。係としては、教室の設定など環境整備に万全を尽くしたい。 3. サテライト講座については、係としては生徒ができるだけ利用しやすい条件を整え、2学年末に行っているサテライトの体験講座にもっと力を入れたい。 4. 多様な生徒の希望進路を実現に近づける手立てが取れるよう校内議論を喚起していきたい。 5. スケジュールシートについては職員アンケートを行って、来年も実施するか判断したい。また入学時からの取り組みを行えば、効果は期待できるので、新学年にはスケジュールノートを持たせる試みを検討して戴きたい。
07 保健	1. 安全で、健康的な学校生活を送れるように環境整備や疾病の早期発見と自主自立的な健康管理ができるような保健指導を行う。 2. 開放的な保健室運営をし、相談活動を行う。 職員相互の連携をとり、諸課題について検討し解決に向けて協力する。	2 - ① ②③ 3 - ① ②	1. 健康診断、日常の健康観察から疾病を早期に発見し、早期治療に結びつける。 2. 相談活動については、状況・情報等を共有しあい、複数で関わる。必要に応じて、校内外の関係者と早めの対応を行う。 3. 感染症等については、早期に情報共有し、最悪を想定しながら、慎重に、迅速に、誠実に、組織で、対応する。		1. 今年度より、歯科検診も学年単位の連日3日間午後の健康診断に加わり、生徒が落ち着いて受検でき成果が上がった。測定者（職員）の協力が無いと実施できない。2. 相談活動は、思春期の特性を頭に置き、丁寧な対応に心掛けた。情報を複数で共有し、関われ良かった。 3. 感染症対応は、職員会で対応マニュアルを説明し、理解/協力を求めた。情報の共有はタイムリーにはなかなかいかないが出来ている。「教室等の換気」の実施がなかなか進まない。	・視力計がそろい、来年度からは内科以外、健康診断がスムーズに流れることに期待したい。 ・引き続き、開放的な保健室を目指して、整備していきたい。
08 清掃美化	1. 生徒各自が環境への理解を深め、学校外・地域社会でも活動できる積極性を養う 2. ゴミの減量化や分別に取り組む 3. 教育活動の場にふさわしい環境で日々快適に活動出来るように校舎内外の美化に努める	2 - ① ② 3 - ① ②	1. 生徒、職員全員で校舎内外の清掃美化に努める 2. ゴミの分別処理・減量化に努め環境への理解を深める 3. 街路清掃活動を通して、地域の一員として環境美化や奉仕の心をはぐくむ		・授業の間に清掃が設定され、大町高校の時代の放課後清掃に比べて時間的に十分に清掃ができないため、行き届いた清掃となっていない。清掃用具も十分でない指摘されている。 ・生徒自身の自覚やボランティア精神が減衰してきており、秋季の街路清掃は実施を見送った。 ・清掃工場からの依頼でプラスチックごみと可燃ごみの分別を停止した。	・洗剤やトイレシートなどの消耗品に生徒会からの予算を充当しており、清掃用具などの購入は難しい。生徒会会計で清掃用具を整えること自体に意見もある。 ・清掃のやり方を知らない？生徒が増加しており、清掃方法を毎回、教える必要ある。 ・モップの選択を事務室4万円ほどで予算で実施した。廊下のワックスがけは技術的に困難なため見送っている。
09 図書館	1. 学習センターとしての役割を果たす 2. 情報センターとしての役割をはたす 3. 気持ちの安らぐ場を提供する	1 - ②	1. 課題研究や総合的な学習などをおして、情報活用能力を身につけさせるための指導 2. 著作権に基づいた情報利用の周知と推進 3. 図書委員会活動の活性化 4. 図書館から情報を発信することで、図書館の利用を促進する 5. 他の図書館との連携 6. 図書館を利用する授業に対応できるよう、図書館資料や図書館用品を充実させる。	4	・図書館オリエンテーションや図書館を使った授業を通して参考文献の記述方法を指導した。 ・日常の図書当番活動はもとより、各行事毎に仕事の打ち合わせを行い、図書委員全員が活動できる場を設定した。 ・全職員の協力を得て、読書旬間中に「惹句大賞」を実施し、生徒、職員に投票をしてもらった。読書に対する興味関心を、生徒だけでなく、職員間でも話せる場を作ることができた。 ・読書週間、文化祭、読書旬間中などに、積極的にビブリオバトルを実施した。県予選会にも参加し、県内11校を遠隔会議システムでつないだ「電腦ビブリオバトル学校対抗」の企画・運営も行った。 ・他の図書館との連携は相互貸借を行うなど必要に応じて行ってきた。 ・図書館利用の要望に対応すべく努力はしてきたが、予算の都合上すべてには応えられなかった。 ・「本気のかかる大会」などを実施し、文化的素養の涵養に努めた。	・図書費、需要費の増額。 ・椅子と閲覧テーブルを、図書館での学習活動にふさわしい豊かなものに更新する。 ・図書に親しみ、読書を楽しめることを考え、貸出冊数を生徒・職員ともに県平均以上にする。
10 視聴覚	1. 視聴覚教育に関する情報提供を行う。 2. 視聴覚室、視聴覚機器の管理を行う。	1 - ① ② 2 - ①	視聴覚機器を利用した教育実践の研究会や研修会の情報提供。	3	本年度の芸術鑑賞「→Pia-no-JaC←()」は、生徒への訴求力の高い芸術鑑賞を開催することができた。高視研の秋期研修会に参加することができた。 電子黒板の導入に合わせ、より手軽に視聴覚機器を使用できるよう、物品の整理・補充・管理体制の見直しを行った。	機材貸し出し・返却における付属品の紛失、未返却などが目立った。より気軽に視聴覚機器を使用できる環境整備を念頭に、使用・管理マニュアル作成など検討したい。

学校教育目標	重点目標		具体的な目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
CC	活動の基本方針	学校重点 目標・評 価観点の	重点目標		成果と課題	改善策・向上策
11 渉外	新しい岳陽高校の良い環境づくりのために同窓会、PTAが丸となってできる限りサポートしていく。	2-① 3-① ②	1. 来年度の開校記念式典行事につき検討し実施に参加する。 2. 同窓会による生徒支援内容の検討と依頼をする。 3. 各種会議に出席して、学校の近況を報告し同窓会と学校の調整をはかる。 4. 会員からの意見、要望を吸い上げ、より良い学校づくりに活かす。 5. 文化祭、アジアフなどの行事には積極的に参加する。 6. 外部のPTA連絡協議会に参加して、共同の輪を広げる。		・来年度の開校記念式典について学校、PTA、同窓会の三者で実行委員会を立ち上げ、着々と検討を続けている。 ・PTAや同窓会からの意見や要望はあまり多くは聞かれなかった。PTA活動への関心をより高めたり、気楽に意見を言える場面を設定することが必要と思われる。 ・アジアフ物資回収には多くのPTA役員に出ていただいたが、出番はあまり多くなかった。 ・PTA通信は予定通り年度末に発行できた ・文化祭では駐車場係と趣味展を担当してもらった。趣味展には初めて4名(団体)から出展してもらった。今後さらに増えることを望む。	・働き盛りの共稼ぎ家庭が多い中、PTA活動にはあまり関心がないのが実情である。負担が少なく関心が高めるためには、お知らせなり、どんな活動をしているのかなどをホームページを開設して知ってもらえれば良いと思うが、言うは安く行うは難しである。
	(上記渉外として同窓会と一緒にする)					
13 国語	1国語を的確に理解し、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2言語文化に接しながら、言語感覚を磨き、判断、評価する力、論理能力、類推能力を身につけ、感性豊かな人間性を涵養する。	1-① 1-② 1-③	1. 生徒の実態に応じた適切な教材を選択し、必要とされる主体的言語能力と感受性を身につける。 2. 系統的な論理的、心情的文章の読解学習を通じて、自ら考え進路実現に対応する応用力、実践力を育成する。 3. 統合後の課題を明らかにする。		・語彙力養成のために年間を通して計画的にドリル等を実施できた。 ・普通科においては学力幅が非常に大きく、クラス単位での授業が困難になっている。	・普通科のクラスにおいては習熟度別の講座編成も検討してみる。
14 地歴公民	平和で民主的な社会の構成員としての自覚と資質を養うとともに、豊かな知性と国際的な視野を育む。	1-① 1-② 1-③	1. 基礎的・基本的な知識の定着と探究心の養成をはかる。 2. 生徒が主体的に学習できる方法を研究し、自主的精神に満ちた生徒の育成をはかる。 3. 生徒の意見・感想を授業に生かしていく。		1. ノート提出を評価基準に課し授業に取り組む姿勢を確立することに努めた。また成績不振者に補習授業を行った。進学希望者に対する補習授業・特編授業では得点力の向上に成果をあげることができた。 2. IT機器を活用した授業、レポート学習などを通じ、主体的に考える授業の工夫に努めた。 3. 授業評価を通じ、生徒の意見を授業に反映するよう努めた。	・講義形式の授業に終わらないよう、生徒の意欲・関心を高める授業の研究や工夫をさらに進める必要がある。 ・各学年・学科、科目間の情報共有をさらに深め、3年間を通じた獲得目標を教科全体で明確にする必要がある。
15 数学	1. 生徒の実態に合った指導を行い、学習習慣を確立させ、試験で通用する数学力を身につけさせる。 2. 将来社会へ出ても通用する数学的思考力や分析力、及び解析力、判断力をはじめ、知恵としての数学力を身につけさせる。	1-① 1-② 1-③	1. 個々の生徒にきめ細かく対応し、よりわかりやすい指導を目指す。 2. 数学科通信により、各種情報の発信を充実する。 3. ネットワークを利用した数学科指導管理システムを構築し、活用する。①成績処理 ②テスト問題等 ③小テスト ④演習帳の点検 ⑤教材 ⑥課題 ⑦解答 ⑧連絡 4. 新しい教育課程の入試の研究を行い、適切に対応する。 5. 探求課題に取り組む生徒の支援を充実させる。 6. 到達度の目標として実用数学技能検定をより活用する。 ①挑戦者を増やす ②指導の充実 ③合格率アップ	4	1. 1年学究科はほぼ予定された進捗で数Ⅱに入れたが、普通科は遅れがちになる。2年普通科は学力差が大きく、数Ⅲを学習する理系の進捗の遅れが問題。数B選択者の実力にも問題がある。 2. 不定期ながら数学通信を発行し、様々な情報を発信した。 3. システムに問題はないが、形式的な評価に陥る傾向がある。 4. デジタル教科書等を利用する教員が増えて、ICT機器の活用機会も増えている。 5. 数学の課題研究をしたグループがあり、今後に期待したい。 6. 8月、10月、2月、3月と数検受検希望者が5人に届かず、実施出来ずに残念だった。	・出題科目が増えるが、数学B(選択)は文系と理系の進捗や内容に差を付けるなど、講座毎にきめ細かく対応する。 ・内発的取り組みや学習習慣構築を如何に喚起するか、教材等も含め検討する。 ・ICT機器の利用法について更に研究する。 ・一般入試で合格できる実力養成のモデル(実例)プランの具体的提示が求められる。 ・数検受検者を増やす名案はないが、地道に指導に取り組みたい。
16 理科	自然に対する関心や探究心を高め、実験・観察などを行い、自然の現象・事物についての理解を深める。	1-① 1-② 1-③	1. 基礎科目では、実験・観察を取り入れながら、科学に対する興味・関心を高めさせるとともに、基礎を定着させる。 2. 授業(実験)の中で、生徒自身が予想を立て、正しく結果を導く方法を学び、結果をまとめ、結果から考察する場面を設けることで、科学的な思考力や表現力を育成する。 3. 上記1・2を通じて、生徒の多様な進路希望に対応する。	4	1 生物基礎では、写真ではなく生物そのものを生徒に提示し、直接触れることで内容の理解を心がけるとともに、物理や化学、地学基礎においても、簡易型の実験装置や演示実験を取り入れ、興味関心を高めることができた。しかし、理論計算に対して、苦手意識を持つ生徒が多く、こうした生徒に対応していくことが次年度への課題である。 2 映像や実験を取り入れ、生徒が自ら考え、考察した内容をまとめる時間を設けることで、思考力を育成する機会を作ることができた。さらに、ICT機器を利用することで、自分の考えを表現し、クラス全体で共有できる機会を作ること、生徒の主体的な行動がみられた。 3 センター試験での得点率は着実に全国平均に近づいており、成果であり、今後の課題でもある。	・理論や計算に関して、なぜどうしてといったことを考える機会を設け、根気強く考える力を伸ばすことで、理論に関しての理解を深め、苦手意識の克服に努める。 ・ICT機器の有効活用を進める。
17 保体	1. 生徒の特性等を十分に考慮し、内容の決定、各内容の授業時数、単元の構成及び配列等を的確に定めた指導計画を作成し、実践する。 2. 生涯を通じてスポーツに親しめる能力を養うため、選択体育を導入し自らスポーツ活動を実践できる力を養う。	1-①② ③	1. 集団の一員としての自覚とルールに沿った思いやりのある生徒の育成をめざす。公正な態度で仲間と接し、運動の楽しさを体験させる。 2. 全生徒に新体力テストを行い、個々の運動能力を理解させ、自己の能力に適した課題を持たせて運動に取り組みさせる。 3. 生徒や地域環境の特性に合わせた授業内容を作成し、課題設定の仕方や解決の仕方を考えさせ自主性を養わせる。	4	体づくり運動では、教員同士で知識を出し合い、生徒たちが楽しめる運動を開発した。そのためか、体力・運動能力テストの個人記録が前年度より向上している生徒がほとんどであった。 体育館工事のために、種目が限定されてしまい、十分に活動をさせることができなかった。旧大町北高校の大体育館が利用できたことは本当に助かった。 本校独自である登山トレーニングの充実を図りたい。	来年度の6月に本校の大体育館が完成することで、様々な種目を行えるようになる。各種目の単元計画を綿密に考えて、より体力や運動能力の向上に努めたい。 旧大町北高校の大体育館を使用することで、悪天候時の対応ができるのでお願いしたい。

学校教育目標	重点目標		具体的な目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
CC	活動の基本方針	学校重点目標・評価観点の	重点目標		成果と課題	改善策・向上策
18 音楽	(1)音Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ－音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 (2)音Ⅱ－(1)に加え、芸術文化についての理解と、個性豊かな表現の能力・主体的な鑑賞の能力を伸ばす。 (3)音Ⅲ－(1)(2)に加え感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。 (4)吹奏楽部の活動の充実。	1－① ②③ 2－①	1. 様々な音楽活動を通して、音楽に関する知識技能を高め感性を育む。 2. 創造的な表現に必要な読解力、読譜力の習得を目指す。 3. 実技において、表現の工夫を充実させる。 4. 吹奏楽部の活動の充実。	4	音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、音楽Ⅲ、器楽表現、いずれの科目も予定していた授業はできた。音楽Ⅰでは、音楽ノートを使用し基礎的な音楽理論の指導をした。音楽Ⅱ、音楽Ⅲでは、発展的な音楽活動に取り組んだ。年間を通して歌うことを重視し、授業では必ず歌う時間を設けた。	・年間指導計画の見直しをする。 ・教材研究、指導方法の研究を深める。
美術	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。	1－① ②③	1. 幅広い創造活動を通して、生活の中にある美しいものに気づかせ、芸術に対する興味・関心を高めさせる。 2. 自己の内面に目を向けた表現力・創造力を身に着けさせる。 3. 鑑賞活動を充実させ、互いの違いの良さを感じ取らせる。	4	・全学年を通して、生徒にとって身近な題材や素材を扱うことができ、生活の中にある美術や工芸について考えさせることができた。 ・抽象的なテーマや自由制作を設け、創造力を高めさせることができた。より深化した表現力を追求させたい。 ・充実した作品展示を行うことができた。	・ICT機器を活用し、様々なジャンルの作品鑑賞を進めていく。
書道	・書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情と、書の伝統と文化を尊重する態度を育てる。 ・感性を磨き、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばす。	1－① ②③	1. 多様な書活動を通して、書に関する知識技能を高めるとともに個々の感性・個性を育む。 2. 身の回りにある書を多く例に出し、また生徒に発見させることで、書に対する親しみや関心を高めさせる。 3. グループ鑑賞や自己分析・自己評価などを取り入れ、生徒主体の授業展開を目指す。	3	・身の回りにある書を実際に探すことによって、普段見落としていたものを発見し、その字について考えることができた。 ・基礎的な知識技能を身に付けた上で、板やグラスを彫ることで、生徒の個性が溢れる作品になった。また、普段と違った活動をする中で、生徒が意欲的に授業に向かうことができた。 ・鑑賞が少なかったように感じるので、さらに増やしていきたいと感じた。	・課題のスケジュールを見直す。 ・鑑賞活動を増やすことで、生徒が感じたことを言葉にする機会を増やしていく。
19 英語	基礎力を定着させるとともに、4技能(読む、書く、聞く、話す)の力をバランスよく身につけさせる。また、生徒が異文化に対する興味・関心を高め、異文化理解が深まるように取り組む。	1－① ②③	1. 課題を課し、日常的にドリルや小テストを行って家庭学習の習慣と基礎力の定着を図る。 2. ALTとの授業を通して、日常会話の力や異文化理解を深めさせる。 3. 習熟度別、コース別の授業でそれぞれの生徒に応じたわかりやすい授業を行う。	3	・週末課題や小テストを行ってきた。よく取り組む生徒は確実に力をつけることができたが、英語が苦手な生徒の取り組みをどのように促すか課題である。 ・英語検定受検者はのべ145名だった。上位の級へ挑戦する生徒も多くなっている。英語を表現する力(WritingやSpeaking)を伸ばす指導を検討していく必要性を感じている。	・新しい大学入試を視野に入れ、英語検定やその他の外部試験について受験計画、受験対策の検討を進める。 ・英語学習になかなか取り組もうとしない生徒のモチベーションを高める研究を模索していく。
20 家庭	よりよく生きるために必要な知識技術を学ぶ。 生活に関する事柄に関心を向け問題意識を持って主体的に学ぶことができるようにする。	1－① ②	生徒の生活にできるだけ身近な教材や実習を取り入れる。 生徒に考えさせ、発表をする機会をつくる。	4	・身近な教材を取り入れ、実習を多く取り入れることができた。特に調理実習は、3年生は2講座で計19回、2年生は全クラスの合計24回を行った。 ただし、危機管理上、問題が発生したのを一人で指導していたので気づかなかった。 ・3年「子どもの発達と保育」「生活と福祉」で図書館や情報室を借りて、書籍、PCで生徒に調べ学習をすることができた。調べた後、そこから発展するような工夫を考えていくのが今後の課題である。 ・「生活と福祉」では校内に社会福祉協議会の方々が来て、計13回講義や体験を行っている。医療・福祉分野に進学する生徒は知っている内容である。	・これからも生徒の興味・関心を引くような、教材研究が必要だと考える。 問題発生後、包丁の数を実習前に確認し、使うだけ最小限出すようにした。 今までも担任の先生に試食していただいたが、複数の目で生徒の様子をみていただくようこれからも担任の先生に協力をお願いします。 ・「保育」分野で保健センターので実習や保育園実習ができなかった。来年度は時期を調整して実施したい。
21情報	1. 情報の収集・処理・発信などの情報活用能力を身につけさせる。 2. 自ら課題を見つけ、情報技術を駆使して解決していく能力を身につけさせる。 3. 情報技術を主体的に活用し、情報社会に主体的に参加する態度を身につけさせる。	1－① ②	①教科書の内容からコンピュータの特性や情報通信ネットワークの仕組みなどの基礎知識を身につけさせ、実習・演習を多く取り入れ、定着を図る。 ②調べ学習を行わせ、その内容を発表させる。 ③社会の変化に応じた教材を取り入れる。	3	①授業の半分を超える実習を取り入れることにより、基礎知識の定着を目指し、WORDやEXCELのスキルなどをプリントへの記入をしながら、操作について説明をして生徒にある程度定着させることができた。しかし、キーボード入力や中学までの経験値に差があり、すべての生徒に定着できたのかどうかは課題が残る。 ②RESASと使った探究的学習に取り組み、生徒が課題を見つけ出し、解決策を考える一連の流れを学習できた。信州学や外部講師・大町市との連携を図りながら取り組んだが、時間数が少なかつたため、プレゼンテーションまで行うことができなかった。	①定着度合いを測るための、課題や小テストも検討する。 ②年間の授業を見直して、扱う項目等を精選しながら授業展開を考える。 ③さらに生徒が興味・関心をひくような題材を考える。
商業	1. ビジネスの基礎・基本の能力を身につけ、社会の変化に柔軟に対応できる資質とモラルを育成する。 2. 商業に関する資格取得を目指し、多様な進路実現を図るために学力を育成する。	1－① ②	①ビジネスマナーに準じた挨拶・見だしなみ等を身につけさせる。 ②資格取得という目標を持たせ、自ら意欲的に学習する態度を培う。	3	①長野県総合教育センターでの生徒実習を行い、環境を変えた授業展開を行った。学校だけではない学習で生徒に興味・関心を持たせることができた。しかし、年間を通すとなかなか授業展開に難しさがあつた。 ②授業以外に課題を出し、定期的に取り組む姿勢を培うことを目標とし、生徒たちは熱心に取り組んだが、生徒による温度差が見受けられた。 ③検定試験の掲示を各クラスに行い、授業受講者だけではなく、受験者も現れてきた。	①授業内容をもう一度見直し、生徒の興味・関心を引く題材を考える。 ②年間を通した取り組みから、基礎学力の定着や学習態度を身につけさせる。

学校教育目標	重点目標		具体的な目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
CC	活動の基本方針	学校重点目標・評価観点の	重点目標		成果と課題	改善策・向上策
22 1 学年	1. 新たな伝統の礎を築く。 2. 互いに認め合いながら支えあう。	1 2 3	① 基本的生活習慣の確立 ② 授業への集中と予習・復習など自立した学習習慣の定着 ③ 進路を見通した基本的学力の構築と、発展的学習への挑戦 ④ ホームルーム・生徒会・クラブ活動など自主活動の充実と岳陽精神の涵養 ⑤ 挨拶の励行と自他を大切にしたコミュニケーション能力の育成	4	①全体的には出席状況は良好。一部に遅刻や長欠の生徒がみられた。また、年度末になり高校生活に希望・目標が見いだせず、気力を失うケースがみられる。一部ではあるが持ち物の管理、スマートフォンの利用など自己管理が甘い者がおり、改善に向けるまでは至らない。また、頭髪、服装の乱れがある。 ②③生徒は授業にはおおむねまじめに取り組んでいたが、家庭学習の習慣が確立できていない。また、一部にやる気をなくした者もみられた（テストの結果を気にしない生徒・朝ドリルの準備に取り組めない生徒の増加）。一方で朝補習・土曜補習への参加を最後まで継続できた生徒もいた。 ④学年ルーム長会（場合によっては学年委員会）を招集し、学年のローガンの決定や問題点の共有、改善に取り組んだ。 ⑤学年集会や講話等の司会を生徒が行った。職員からは学年通信等も活用し、情報やメッセージを数多く送った。	①生徒の状況は個々異なり、日々変化。学校以外でエネルギーを消耗する生徒も多い。無条件で共感し、支えになる存在が必要な場面もある。自己管理の動機付けにロッカーの整理、学習シートの記入とシラバスタイルへの保管などスタート時に工夫。 校風の維持は生徒間で意識統一が必要。 ②③学習シートを前期中間考査まで利用し、学習習慣の確認。 HRドリルでチャイムスタートの定着。 学習合宿で意欲の向上。 生徒申し入れによる面談（学習相談や進路相談）の実施。 ④生徒が持つ課題の吸上げシステムの構築、職員が生徒に感じてほしい問題点のおろし方の工夫。
23 2 学年	1. 新たな伝統の礎を築く。 2. 互いに認め合いながら支えあう。	1-① ②	① 基本的生活習慣の確立 ② 授業への集中と予習・復習など自立した学習習慣の定着 ③ 進路を見通した基本的学力の構築と、発展的学習への挑戦 ④ ホームルーム・生徒会・クラブ活動など自主活動の充実と岳陽精神の涵養 ⑤ 挨拶の励行と自他を大切にしたコミュニケーション能力の育成	4	① 多くの生徒が基本的なことはきちんとできていると思うが、一部、学校の中でロッカーや机周りの整理ができていない。これは、家庭に教材を持ち帰り、学習する習慣がついていないこととも関連しており、課題である。 ②③ 学習面に関して、家庭学習（予習・復習）をやりきれない生徒が少なかった。課題に追われる結果、作業になっている生徒も多く、家庭での学習習慣を定着させることが課題である。進路については、3年次の教科選択とも絡めながら、折に触れて意識づけを試みてきたが、少しずつ自分の問題として捉えられる生徒が増えてきている。 ④ 総じて生徒会やクラブホームルーム活動には前向きな生徒が多い。 ⑤ 挨拶はほとんどの子がよくできているが、一部に挨拶ができない生徒もいる。 全般 ・統合2年目で、新しい視点での取り組み方向を打ち出す難しさを感じた学年だった。 ・幅広い学力の生徒を受け入れる中で、学校が対症療法的な対応をせざるを得ず、しっかり対応できなかった面も否めない。 ・学年の職員集団は、情報の共有も十分はかれ、学年通信を輪番で発行するなど、生徒に一致して向かい合っており、よかった。	・多様な生徒に対応するため、生徒との対話や個別の指導等に教員が向かうエネルギー・時間が必要である。 ・学習環境の向上のため、放課後などを使って、学習面の相談や補習（もちろんその他の相談も）を行う。 ・放課後の時間を生みだし、生徒と向き合える時間を増やすことが不可欠である。 ・生徒の自主性を育てるために、学年集会などを生徒に司会をさせる。 ・学校全体として、新校の取り組みの方向性、内容を具体的に決めていく。 ・職員も挨拶をする。 ・進路へのモチベーションを高めるための情報発信。
24 3 学年	1. 進路実現に向けての具体的な取り組み 2. 新校のリーダーとして自覚を持ち、理想の高校の実現	1-① ②③ 2-①	基本的生活習慣の確立 予習・復習の継続による自立した学習習慣の定着 基本的学力の構築から発展的学習への挑戦 HR・生徒会・クラブ活動の充実と岳陽精神の涵養	4	1-①②自己実現に向け、特に夏休み以降、面談などを中心に指導し、基本的な生活習慣が定着できた。 2-①クラスマッチや文化祭など学校行事での活動の充実を図り、新校の生徒会活動・クラブ活動などにある程度道筋をつけることができた。	学年としてまとまった取り組みができづらい場面もあった。
25 学校保健安全	心身共に健康な生徒の育成	1-② 2-①	1. 保健管理(健康観察や健康診断等)と衛生管理(安全点検、環境衛生検査等)を充実させ環境を整える。 2. 生徒保健委員会を通じて、自他の健康に関心を持てる生徒を育成する。 3. 関係諸機関との連絡を密にして、心身の健康上の問題点の明確化に努める。 4. 学校保健委員会を開催する。 5. 救急救命(AED)講習、保健講話を実施する。	4	・生徒保健委員会は行事の救急処置、ハンドソープの補充、欠席調査等地道に活動できた。 ・学校保健委員会を開催予定。(2月22日)学校医、学校関係職員、PTA保護者と今年度の保健管理、衛生管理の結果等を共有し、意見交換する。(次年度に繋げる)・1学年生徒へ保健講話を実施する。相澤病院出前講座「日常生活の中での救急」(救命救急センター医師)自分が正しいとやっていたことが実は間違っていたと気づかされた、今後知識を生かしたい、講習会を受けたい等の感想記述があった。	・学校保健安全計画の立案 ・学校保健委員会での協議事項をいかしていく。 ・引き続き保健管理、衛生管理を充実させていく。

学校教育目標	重点目標		具体的な目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
CC	活動の基本方針	学校重点目標・評価観点の	重点目標		成果と課題	改善策・向上策
26 登山	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒、職員の参加による安全登山を主眼とする。 ・実際に登山ができるできないにかかわらず、山に関する種々の指導をする。 ・本校職員に加え山岳部OB等の登山専門家に引率指導の協力を依頼する。 ・生徒のコース決定にはその希望を尊重すると同時に健康状態に留意し、無理のないようにする。 ・可能なかぎり職員の研修や登山コースの下見を実施する。 	1-② 3-① ②③	<ul style="list-style-type: none"> ①安全登山という重点目標を達成するために、指導者のスキルの向上に努める。 ②事故防止を徹底するために、学校本部の仕事の内容を再確認し、各係りが効率よく機能する体制を整える。 ③特に1学年生徒に対しては、訓練登山や講習会をとおして全校登山への安全意識の高揚を図る。 ④メディアに対し積極的に情報を発信して、全校登山のPRを行い地域に情報を発信する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は例年にないほどの残雪があったと言うことで、下見時から慎重に準備ができた。具体的に言うと登山本番直前に下見を計画し、登山道の様子や服装および装備等について何が必要かを確かめることができたこと。 ・6月に、安全登山のための講習会を開催した。多くの職員が参加をして登山専門部の先生からの講習を聞くことができた。 ・当日は雨天のために中止となってしまったが、前日から当日の朝まで検討し良い判断ができたと思う。ただ、やや連絡が遅くなってしまい登校してしまった生徒がいた。中止の場合の連絡方法については課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度と同じように1、2年生は全員の参加で3年生は希望者のみの参加とする。 ・コースは8コースとするが、人数に偏りができたり、職員やOBインストラクターの配置を考慮する。 ・職員対象の安全講習会を必ず行う。 ・OBに限らず、登山ガイドができる外部講師を増員する。(OBも若いOBにかえていく)
27 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度新教育課程の確認 ・28年度入学生教育課程の検証 入学生徒の実態と適合確認 	1-① ③ 3-① ②	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程について、各教科で検討を行い、シラバスに沿った授業が展開されているか確認する。 ・28年度入学生教育課程の確認をし、講座編成について検討する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 新校2年目となり教育課程の課題が意識され各教科から改善案が出された。委員会と各教科会の審議を経て職員会に提案し教育課程の修正をおこなった。 普通科来年度3年生の選択科目講座編成の作業が難航した。2年次からのコース制のあり方も含めて各教科の科目設定等に検討が必要である。 	今年度中に議論を進め、来年度の教育課程編成作業や選択科目講座編成作業がスムーズにおこなえるようにしたい。
28 施設予算	校内の施設設備の改善および良好な職場環境	1-① 3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室の配置等、各教科と相談しながら、教職員が快適に過ごせる環境を実現する。 ・事務室と連携しながら、適切な予算の執行を図る。 	3	①予算が限られている中、各教科に無理をお願いしながら、予算を執行することができた。	①必要などころに、できるだけ予算が配分できるような配慮を考える。 ②来年度の体育館完成に合わせて、施設等の改善等考える。
29 理数科学教科運営	<ul style="list-style-type: none"> ・大町高校理数科の理念や目的を引継ぎ、新しい学教科の活動へつなげる。 ・2年理数科の課題研究では、これまでの自然科学分野の研究にとらわれず、人文科学分野の研究も行うことで、次年度の学教科の課題研究への準備を進める。 ・『中高生の科学研究実践活王動推進プログラム』に参加して積極的に地域や他の団体との連携を深める 	1-② 2-② 3-① ②③	<ul style="list-style-type: none"> ■理数科学教科行事の運営 ①理数科講演会（東京工業大との連携） ②課題研究（東京工業大、山岳博物館との連携） ③校外実習・湿原自然観察会（2年：山岳博物館） <ul style="list-style-type: none"> ・自分のDNAを調べよう（2年：松本大学） ・センター実習（1年総合教育センター） ④科学コンクールなどへの出品 ⑤研究大会参加 ⑥信大と連携模索（体験学習・学校見学） 		<ul style="list-style-type: none"> ■ ①12年学教科4クラスの初の学教科講演会 ⇒ゼミ1とゼミ23室で分けて、国立遺伝学研究所と東京大学の先生から講演をしていただいた。160名でも十分開催可能 ②火曜日の6時間目に2年56組の数学の授業を入れ、7時間目と連続した授業ができるようにした。⇒問題点も多々あるが、来年度も今年と同じ形式で実施の方向 ③校外実習・親海湿原自然観察会(7/13:1年信州サイエンスアソシエーションプログラム)・センター実習(11/13,14) ④国際ゲノムシンポジウム5/28、日本地球化学学会9/13ポスター発表(3年)、信州サイエンステクノロジーコンテスト参加(2年普通科&学教科)、課題研究合同研修会口頭発表(2年12/23)、信州サイエンスミーティング(2年3/4) ⑤理数科教育研究大会11/7 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ・課題研究の本来の目的である主体的に問題を発見し周りと協働しながら問題を解決していく力を養っていききたい。 ・『中高生の科学研究実践活王動推進プログラム』も3年目を迎え、今年度で終わりとなる。学教科講演会や平成31年度学教科2年生の課題研究に向けて新たな連携を構築していきたい。 ・2021年(平成33年)度入試から改定される調査書の課題研究等に関する活動記録についての研究を進路係と連携して行っていきたい。
30 教科代表	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で諮問を受けた諸問題について、各教科間の連携や意思疎通が図れるよう、協議し対応していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・前期選抜の実施方法について必要に応じて検討する。 ・教員定数の削減について必要に応じて検討する。 ・備品購入について必要に応じて検討する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教員定数について委員会を開催し、管理職から示された教員定数に対して教科間の合意をとり調整した。 ・前期選抜の実施方法、備品購入については教科代表者会としては議論しなかった。 	統合が進行中でもあり、次年度もこれ以上の削減がないよう年度当初から議論し訴えていく。
31 校務分掌	校務の円滑な遂行のため、適材適所に努める。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 新校になつての組織構成の見直し。 2. 分掌負担の平準化。 	3	働き方改革が叫ばれる中、分掌負担の平準化を少しでも出来るようにご意見を聞きながら進めていきたい。	多くの先生方と細かなヒアリングをしながら進めていきたい。
32 初任者研修	初任者研修が有意義なものとなるように校内の協力体制を構築する。	1 2	<ol style="list-style-type: none"> 1 適切な研修計画の立案 2 初任者に対する適切な指導助言 3 校内における授業研究等の充実 	4	計画の立案、指導助言、授業研究等の充実を図ることができた。今年度は、初任者と指導者の研究室が同じだったため、初任者が相談等しやすい面はあったと思う。	初任者が気楽に相談できるような体制や雰囲気を整えたい。今後も他校の取り組み報告も参考にしながら取り組んでいければ良いと思う。

学校教育目標	重点目標		具体的な目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
CC	活動の基本方針	学校重点目標・評価観点の	重点目標		成果と課題	改善策・向上策
33 学校衛生	1. 職員の健康の保持増進 2. 安全かつ快適な職場環境作り	3-①	1. 健康管理について 健康診断・ドック受診率100%を目指す。 2. 学校衛生委員会を開催し、健康管理医より、専門的立場から職員の健康保持増進、環境整備等に指導助言をいただく。 3. 職場環境について…①メンタルヘルスが良好な職場（話し合える連携、仲間の支えあい、上司の理解意識、コミュニケーション、自分のことが語れる、明るく暖かい空間、同じ方向を向いている、つながり、緊張しない、挨拶、思いやり、お互いに知る）、②安全点検	4	・学校衛生委員会を7回開催、職場環境、職員の健康問題、環境整備等協議、情報共有が出来た。毎回健康管理医も出席、専門的立場から指導助言をしていただいた。指導内容/情報等は、朝会等で職員へ周知できた。 ・ドック受診率は数人のところでなかなか100%実施とは成らない。学校での健康診断を勧めたい。 ・部活関係等による超過勤務者が複数いる。休めるときに休んでもらえるよう、声掛けが必要と感じる。	・引き続き委員会の協議内容を充実させていく。 ・話し合える連携、仲間の支えあい、上司の理解意識、コミュニケーション、自分のことが語れる、明るく暖かい空間、同じ方向を向いている、つながり、緊張しない、挨拶、思いやり、お互いに知るなどの職場環境は大切であり、引き続き整えていく。
34 教育サポート	本校生徒が、それぞれの特性や能力を十分発揮できるような支援体制をとっていく。そのために次の4項目を基本方針とする。 1 総合対策 2 相談支援体制 3 教職員研修 4 学校・家庭・地域・関連機関の連携	1-① 2-③ 3-①	1 支援が必要な生徒の状況を把握し、計画的、組織的に全職員で対応する。 2 校内委員会を定期的で開催し、支援が必要な生徒を早期に把握し、具体的な支援のあり方や保護者・外部機関との連携を推進する。 3 校内研修の充実と外部研修への参加を促す。 4 関係機関との連絡を密にして事前に対策・指導を行う。 5 新校移行に伴い大町北高と連携を深める。	3	・昨年に引き続き必要に応じ支援会議を開催し、個別に生徒の支援に努めることができた。外部機関との連携等速やかに行うことができた。次年度は、教員の生徒理解に対する資質の向上に重点を置き、生徒及び保護者に対して適切な対応が取れるように、効果的な研修を行いたい。	外部機関との連携を深め、よりスムーズな支援体制の移行を実現し、対応の充実に努めたい。
36 コンプライアンス	非違行為の等の防止	2-③	1 相談体制の周知と積極的な声かけ 2 職員研修の実施	3	1 相談窓口を設けて体制を整えている。 2 非違行為や「職場におけるハラスメント防止要綱」に基づいた研修と、男女共同参画社会の取り組みにおける研修を折をみながら行った。	引き続き相談しやすい体制と適切な研修をとりながら進めていきたい。
38 ビジョン委員会	本校が、どのような「学び」を目指し実現するのか、中長期ビジョン・戦略と短期ビジョン・戦略について検討を進める。	1, 2, 3	中長期ビジョン・戦略 1 知徳体を育む学校のあり方と人口減、労働形態の変化等に対応した10年後の本校の将来像について 短期ビジョン・戦略 1 普通科生徒の進路実現と学力向上の方策 2 課題研究のあり方 3 新テストへの対応 4 地元中学校との連携	3	中長期ビジョン、短期ビジョンの両面において、職員会等に提案を行い議論を活発に進めることができた。ただし、地元中学校との連携は不十分なところはあった。	普通科生徒の学力向上に関しては、学校全体で検討をしなければいけないことは山積している。来年度も様々な提案を行っていきたい。
35 いじめ防止	どのような社会にあっても、いじめは許されない。いじめる側が悪いという認識に立ち、毅然とした態度で指導する。また、いじめられている生徒の立場にたって心に寄り添う指導を行う。	2	1 いじめの早期発見のために教育相談の充実を図る。 2 年5回の面談週間において、個別に生徒と話をする時間を確保する。 3 年2回生活実態調査を行い、いじめに関する実態を把握する。	3	保健室と教務室、生徒指導係間での連携は十分とは言えないが連携が図られたと思う。外部の方を入れての会議を開催することなく活動できたことは一つの成果ではある。	学年そして様々な係、委員会がいじめに関しては様々な取組みを行っており、その動向を見ながら委員会を随時開催していきたい。
37 岳陽塾実行	土曜日を活用した自主的、主体的な学習の場である岳陽塾の円滑な運営を図る。	1	1 土曜日補習の充実を図る。 2 岳陽アカデミーの推進を図り、岳陽塾と連携しながら学力の向上を図る。	3	学習指導係、進路指導係の尽力もあり、土曜日補習、模擬試験の充実を図る方向で進める事ができた。	岳陽アカデミーにおける外部講師の活用に関しては、具体的な検討をさらに進めなければならない。また、PTA総会、地区PTAにおいても学力向上に関して、保護者の要望等をお聞きした上での充実策も必要と思われる。